

議事 2

今年度の進捗状況

■ 風況調査

風況調査（報告書5.5）

■ 目的

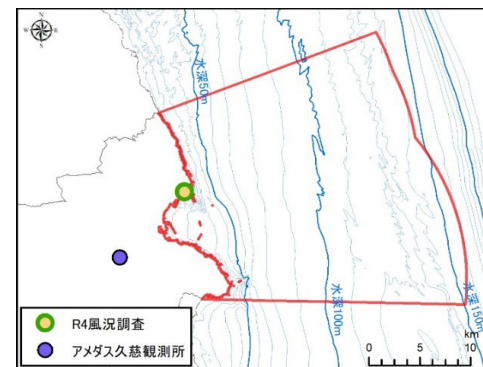
- ・ 浮体式洋上風力発電施設による発電出力を想定し、事業計画をより具体的に進めていく情報として、対象区域の精緻な風況の情報を得る。

■ 実施内容

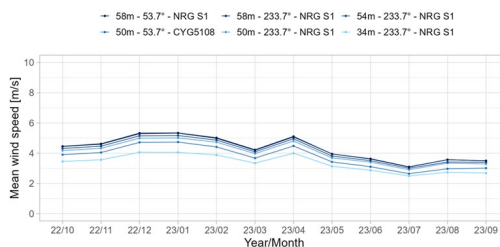
- ・ 陸上の風況観測マスト及び鉛直照射型ドップラー・ライダーによる調査を1年間実施。

■ 調査結果

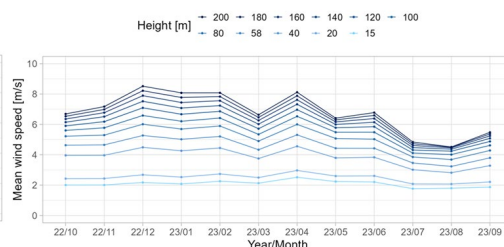
- ・ 平均風速：3月を除く12～5月まで高風速，4月以降は下がっていく傾向であった。高高度ほど月別の風速変動は大きい傾向であった。
- ・ 風向別出現度：1年を通して概ね西南西～西北西の風が大半であり，西風が卓越した。
- ・ 風況解析：WRFシミュレーションにより沖合では7～9m/s程度の風況が見込まれた。
- ・ データ補完方法：風況マストの欠損・異常データは除去するとともに，同時刻に54m高・53.7°の風向計のデータが存在するときにはその値を参照し，16方位別平均誤差を用いて補完した。



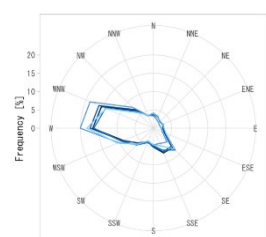
調査地点



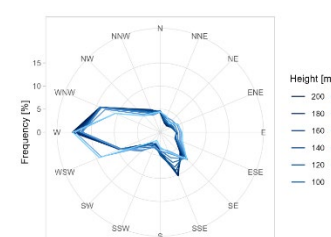
マスト観測の平均風速



ライダー観測の平均風速



マスト観測の風向別出現度

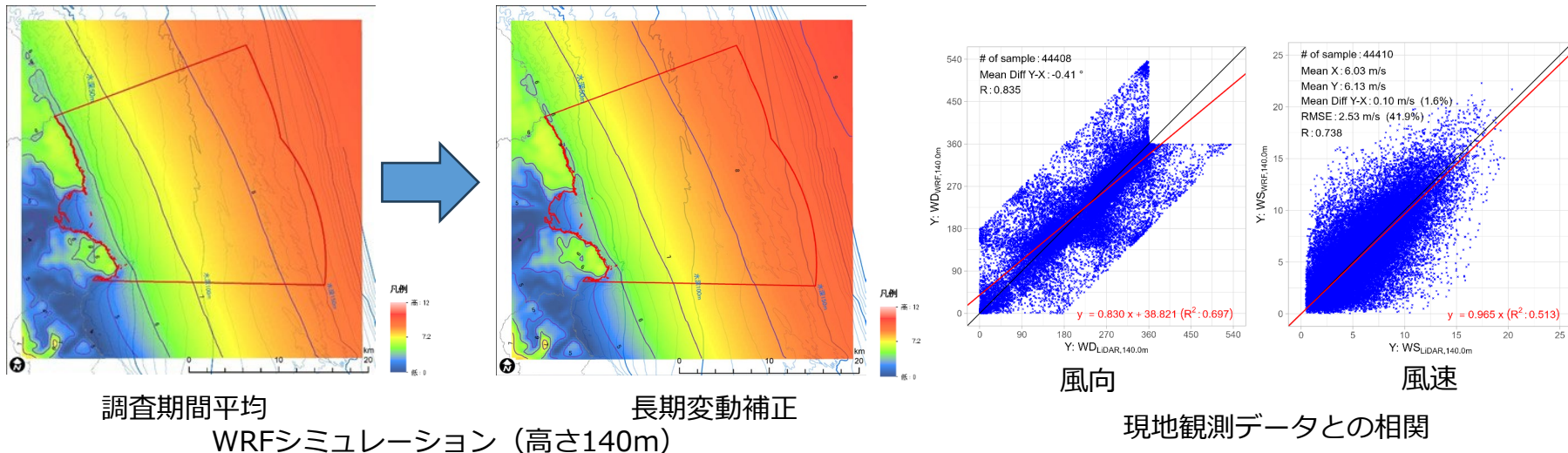


ライダー観測の風向別出現度

風況調査（報告書5.5）

■ 調査結果

- 観測結果から、ゾーニング時のWRFシミュレーションを精緻化した。
（WRF：Weather Research and Forecasting modelの略，気象モデルの一つ）
- 高さ140mでのシミュレーション結果は，水深100m付近が調査期間平均の年平均風速でおよそ7~8m/s，水深150m付近でおよそ8.5m/sとなった。
- 長期変動補正も同程度であるが，期間平均よりやや強い風況となった。
- 解析結果と現地調査データの比較（風向）：平均誤差は-0.14°で相関係数はR=0.835
- 解析結果と現地調査データの比較（風速）：平均誤差は-0.10m/sで相関係数はR= 0.738
- 比較的相関が高い結果であった。



■ 考慮すべき事項

- 風況解析シミュレーション（WRF）によると，当該海域の沖合では7~9m/s程度の風況が見込まれた。風況に関して，事業性があると見られる。